

建設機械市場の現状

1. 建設機械出荷金額推移

建設機械出荷金額（内需・外需の合計）は、1996年度に2兆170億円に達したが、これをピークとして、以降減少を続けている。しかし、2002年度の出荷金額合計は、依然低水準ではあるものの、徐々に前年度比が上向き、2.9%増の1兆1,735億円となった。これは、国内出荷は前年度比13.6%減の6,101億円と相変わらずの減少傾向だったにもかかわらず、海外出荷が前年度比29.8%増の5,633億円と急上昇したためである。

製品別に見れば、海外出荷実績が国内需要の減少分をカバーできたのは、油圧ショベル、トンネル機械、その他建設機械の3製品だけであったが、建設機械の主力製品である油圧ショベルにおいて、海外出荷が前年度比43%増、出荷額2,467億円と急伸し、過去8年で最高の実績を記録した結果、一昨年度同様前年度比15.6%減と低調であった国内出荷の落込み分を大きく上回り、全体を押し上げる結果となった。

表一に過去8年間の建設機械出荷金額実績（内需・外需）の推移を示す。

表一 建設機械出荷金額実績（内需・外需）

(百万円)

		1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
トラクタ	内需	128,953	144,529	111,500	88,576	89,095	91,587	87,567	63,612
	外需	109,209	130,673	151,012	185,873	93,258	83,276	87,020	100,236
	計	238,162	275,202	262,512	274,449	182,353	174,863	174,587	163,848
油圧ショベル	内需	376,808	402,362	312,824	247,496	263,380	267,425	188,967	159,521
	外需	172,868	189,301	214,421	208,604	176,600	163,180	172,457	246,681
	計	549,676	591,663	527,245	456,100	439,980	430,605	361,424	406,202
ミニショベル	内需	131,932	140,899	113,169	84,133	82,904	77,058	62,286	50,683
	外需	17,968	15,988	25,405	34,978	45,808	48,200	41,716	51,793
	計	149,900	156,887	138,574	119,111	128,712	125,258	104,002	102,476
建設用クレーン	内需	247,535	290,949	235,651	146,524	121,583	114,087	88,509	75,703
	外需	35,341	43,155	52,596	33,711	26,689	15,814	16,801	23,539
	計	282,876	334,104	288,247	180,235	148,272	129,901	105,310	99,242
道路機械	内需	62,549	69,138	56,413	44,681	39,171	39,754	35,182	32,521
	外需	10,862	16,283	15,078	15,605	11,556	16,661	11,917	12,338
	計	73,411	85,421	71,491	60,286	50,727	56,415	47,099	44,859
コンクリート機械	内需	56,954	62,161	49,335	32,857	30,707	32,612	24,787	20,312
	外需	5,338	5,061	3,446	1,924	1,320	1,651	1,302	3,290
	計	62,292	67,222	52,781	34,781	32,027	34,263	26,089	23,602
トンネル機械	内需	59,064	65,755	63,684	53,323	40,213	38,231	28,503	31,639
	外需	2,426	3,142	2,568	5,895	2,734	2,902	5,652	3,398
	計	61,490	68,897	66,252	59,218	42,947	41,133	34,155	35,037
基礎機械	内需	44,318	41,789	31,437	20,466	19,882	18,067	14,267	14,257
	外需	4,580	2,638	2,147	986	986	994	818	260
	計	48,898	44,427	33,584	21,452	20,868	19,061	15,085	14,517
油圧ブレーカ・圧砕機	内需	24,090	25,503	19,816	15,120	15,435	15,563	13,808	11,758
	外需	5,226	6,433	8,116	8,105	8,375	7,391	6,709	7,414
	計	29,316	31,936	27,932	23,225	23,810	22,954	20,517	19,172
その他建設機械	内需	92,251	90,239	76,093	57,690	60,752	60,908	46,610	43,285
	外需	22,150	30,175	27,798	24,997	27,897	23,696	26,339	50,797
	計	114,401	120,414	103,891	82,687	88,649	84,604	72,949	94,082
補給部品	内需	156,471	166,352	156,443	138,426	128,335	126,242	115,766	106,865
	外需	69,018	74,430	82,118	66,029	60,474	64,871	63,170	63,616
	計	225,489	240,782	238,561	204,455	188,809	191,113	178,936	170,481
合計	内需	1,380,925	1,499,676	1,226,365	929,292	891,457	881,534	706,252	610,156
	外需	454,986	517,279	584,705	586,707	455,697	428,636	433,901	563,362
	計	1,835,911	2,016,955	1,811,070	1,515,999	1,347,154	1,310,170	1,140,153	1,173,518

<参考>

- ・道路機械：ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ、平板式締固め機械、アスファルトフィニッシャ、モータグレーダ、ロードスタビライザ、アスファルトプラント等
- ・コンクリート機械：コンクリートポンプ車、トラックミキサ車、コンクリートバイブレータ、コンクリートプラント等
- ・その他建設機械：ドリル、可搬式コンプレッサ、重ダンプトラック、不整地運搬車、建設廃棄物破砕機等

2. 市場動向

(1) 国内市場

2002年度の国内向け出荷金額は、表-1に示す通り、昨年同様ほぼ全ての製品で前年度を下回り、総額は前年度比13.6%減であった。出荷金額の約30%を占め、市場動向のバロメータである油圧ショベルは、一昨年度の前年度比が29.3%減と、これまでにない大きな落込みを示していたが、2002年度もその傾向が続き前年度比15.6%減の結果に終わった。

図-1に過去8年間の油圧ショベル国内出荷台数の推移を示す。

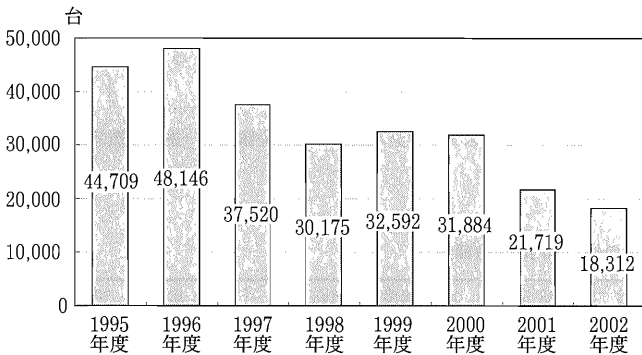


図-1 油圧ショベル国内出荷台数

油圧ショベルの国内出荷台数は、1996年度をピークに下降、1990年代終盤には持ち直すかに見えたが、再度下降に転じている。国内建設機械市場は成熟していることから、需要は景気動向、建設投資等によって左右されると考えられるが、2003年度の建設投資額は前年度比4.5%減と推測されていることから、出荷台数の速やかな回復は難しいと言える。

図-2に過去10年間の建設機械出荷実績（内需）と建設投資（名目値）の推移を示す。

図-2から分かるように、建設機械の国内出荷実績は、建設投資の増減を反映した推移を示しており、我が国の建設投資動向は、建設機械ユーザの投資意欲に大きな影響を与えていることを裏付けて

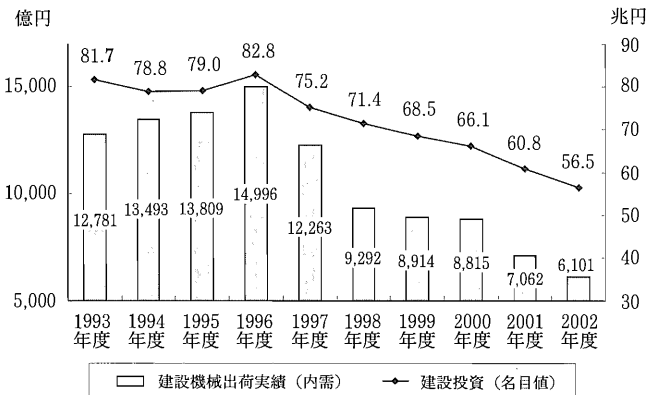


図-2 建設機械出荷実績(内需)/建設投資(名目値)

いる。

(2) 海外市場

国内市場の低迷をカバーすべく、建設機械メーカー各社は北米、アジア地区を中心に海外市場の開拓に積極的に取組み、出荷金額を伸ばして来たが、1990年代中盤以降のアジア地区の景気低迷や、1990年代終盤の米国の景気減速感などから出荷金額は減少傾向を示していた。

ここ数年、アジア地区の景気が緩やかながら上昇傾向にあり、回復の兆しを見せているが、2002年度は中国市場向け出荷の急激な伸びを受け、アジア地域向け出荷が前年度比36.2%増の866億円と急増した。この他、北米、欧州の両地域共に20%近い前年比増となったため、総額では前年比29.8%増加の5,634億円となり、4年ぶりに5千億円の大台に乗せた。

図-3に過去8年間のコンポーネントを除いた建設機械完成品地域別輸出金額の推移を示す。

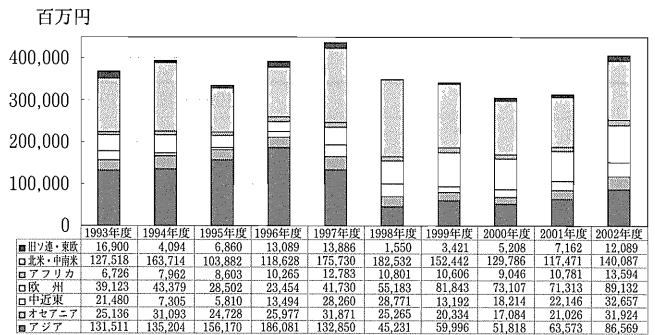


図-3 建設機械完成品地域別輸出金額

製品別では、国内建設機械市場と同様に油圧ショベルの出荷割合が増加してきているが、2002年度は出荷金額の43.8%を占めるに至り、海外市場においても主力の座を不動のものとしている。なお、トラクタも徐々に1千億円台に乗せている。

図-4に建設機械別海外出荷金額の推移を示す。

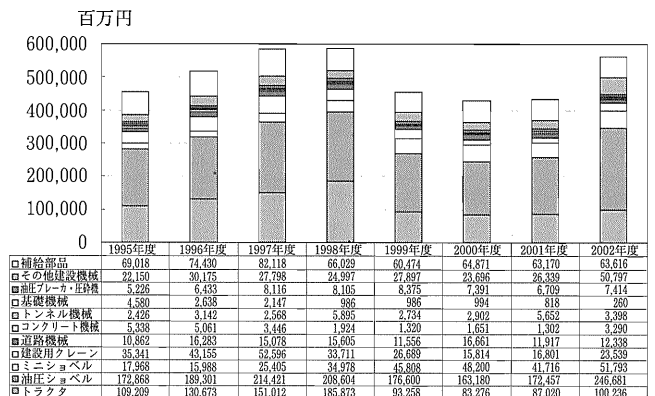


図-4 建設機械別海外出荷金額

統計

3. リース・レンタル動向

国内建設業界にて進む機械のリース・レンタル化の傾向は2002年度も続き、国内へ出荷される建設機械の内、リース・レンタル業へ出荷される比率は31.9%と30%台をキープしている。

表-2に補給部品を除いた建設機械本体の業種別（リース・レンタル/その他）国内出荷金額実績の推移を示す。

図-5にリース・レンタル業向け出荷金額比率（主要5製品）を示す。

この2~3年の状況として、これまでリース・レンタル業への出荷比率が高く、かつ増加傾向を示している油圧ショベル、ミニショベル、建設用クレーンに、やや頭打ちの傾向が見られる。

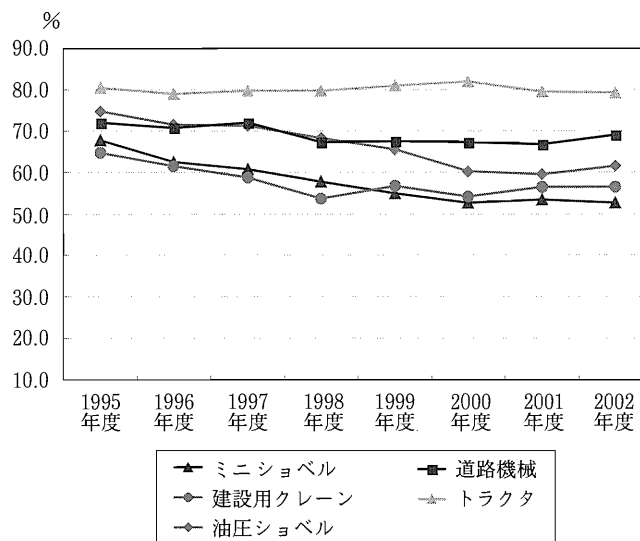


図-5 リース・レンタル業向け出荷金額比率（主要5製品）

表-2 業種別（リース・レンタル/その他）国内出荷金額実績

(百万円)

	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	
トラクタ	ユーザー等	103,771	113,959	88,823	70,655	72,173	75,113	69,478	50,435
	リース・レンタル	25,182	30,570	22,677	17,921	16,922	16,474	18,089	13,177
	計	128,953	144,529	111,500	88,576	89,095	91,587	87,567	63,612
油圧ショベル	ユーザー等	281,586	287,539	222,438	168,490	172,588	161,046	112,477	97,831
	リース・レンタル	95,222	114,823	90,386	79,006	90,792	106,379	76,490	61,690
	計	376,808	402,362	312,824	247,496	263,380	267,425	188,967	159,521
ミニショベル	ユーザー等	89,138	87,978	68,568	48,473	45,470	40,588	33,206	26,678
	リース・レンタル	42,794	52,921	44,601	35,660	37,434	36,470	29,080	24,005
	計	131,932	140,899	113,169	84,133	82,904	77,058	62,286	50,683
建設用クレーン	ユーザー等	159,938	178,796	138,509	78,603	68,845	61,643	49,841	42,624
	リース・レンタル	87,597	112,153	97,142	67,921	52,738	52,444	38,668	33,079
	計	247,535	290,949	235,651	146,524	121,583	114,087	88,509	75,703
道路機械	ユーザー等	45,060	48,900	40,638	30,058	26,454	26,708	23,477	22,443
	リース・レンタル	17,489	20,238	15,775	14,623	12,717	13,046	11,705	10,078
	計	62,549	69,138	56,413	44,681	39,171	39,754	35,182	32,521
コンクリート機械	ユーザー等	51,520	58,059	46,137	30,234	27,978	29,894	21,929	18,065
	リース・レンタル	5,434	4,102	3,198	2,623	2,729	2,718	2,858	2,247
	計	56,954	62,161	49,335	32,857	30,707	32,612	24,787	20,312
トンネル機械	ユーザー等	55,133	64,735	61,252	50,975	37,901	36,303	26,742	31,294
	リース・レンタル	3,931	1,020	2,432	2,348	2,312	1,928	1,761	345
	計	59,064	65,755	63,684	53,323	40,213	38,231	28,503	31,639
基礎機械	ユーザー等	42,375	39,778	28,763	18,722	17,149	15,601	13,184	12,831
	リース・レンタル	1,943	2,011	2,674	1,744	2,733	2,466	1,083	1,426
	計	44,318	41,789	31,437	20,466	19,882	18,067	14,267	14,257
油圧ブレイカ・圧碎機	ユーザー等	22,234	22,862	18,096	10,938	10,915	11,614	12,183	10,541
	リース・レンタル	1,856	2,641	1,720	4,182	4,520	3,949	1,625	1,217
	計	24,090	25,503	19,816	15,120	15,435	15,563	13,808	11,758
その他建設機械	ユーザー等	63,778	57,981	48,696	36,731	40,734	41,338	31,436	30,119
	リース・レンタル	28,473	32,258	27,397	20,959	20,018	19,570	15,174	13,166
	計	92,251	90,239	76,093	57,690	60,752	60,908	46,610	43,285
本体計	ユーザー等	914,533	960,587	761,920	543,879	520,207	499,848	393,953	342,861
	リース・レンタル	309,921	372,737	308,002	246,987	242,915	255,444	196,533	160,430
	計	1,224,454	1,333,324	1,069,922	790,866	763,122	755,292	590,486	503,291

注) ユーザー等とは、建設業者、官公庁など、リース・レンタル以外の全てを言う。

4. 中古車市場動向

建設機械の中古車市場動向は、国内外の建設機械市場動向に密接に関係している。新車販売時における下取り価格の動向、そして建設市場縮小に伴う新車買控えと中古車購入など、実際の取引の場においては国内外の中古車の価格動向が大きな影響をもっている。

過去10年間の中古車発生・新車販売台数（主要6機種）を図-6に、中古車需要の国内・海外構成（主要6機種）を図-7に示す。なお、主要6機種とは油圧ショベル、ミニショベル、クローラトラクタ、ホイールローダ、クローラクレーン、ラフテレーンクレーンである。その他機種についてはデータが不備のため割愛した。

図-6に示すとおり、1997年度に中古車発生台数が新車販売台数を上廻って以来、新車販売台数の落込みもあって年々その差を広げ、2001年度においては新車販売台数56,620台に対し、中古車発生台数が98,975台と実に約1.7倍にもなった。

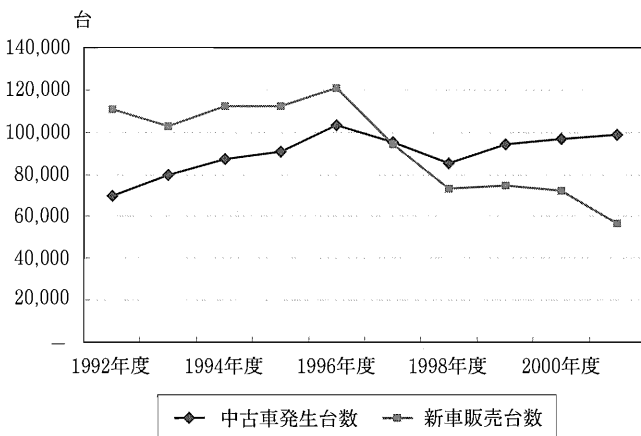


図-6 中古車発生・新車販売台数 (主要6機種)

これは一般ユーザが不要機械処分のために、新車購入1台に対して複数台数の下取り、あるいは中古車販売店への直接売却等の対策をしていること、レンタル業者が保有機を見直し不要機の大量処分をしているためと思われる。建設業者のレンタル依存はますます進み、国内新車需要の低迷、海外中古車需要の伸びなどから今後もこの傾向は進むものと思われる。

需要面においては図-7に示すとおり国内需要は1996年をピークに年々減少しているが、海外需要は1999年度の大幅増以来年々増加し、2000年度には海外と国内需要が逆転し、2001年度には海外54,530台、国内44,445台と更にその差が開いた。

国別にては香港の伸び（対前年度比17.5%増）とシェア（20.6%）が大きく、特に油圧ショベルのウェイトが高い。香港から中国本土市場に流れるものが増加しているものと思われる。

また統計上では一括りとなっている中国、ロシア、中近東などそ

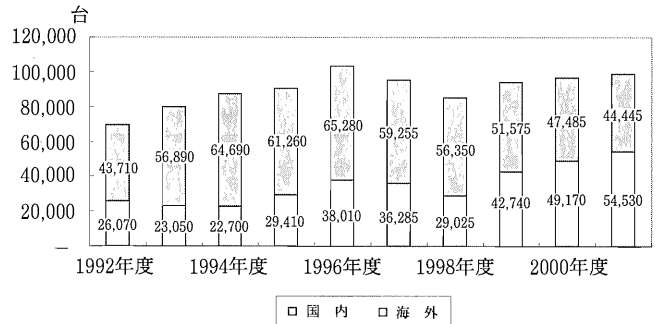


図-7 中古車需要台数の国内・海外構成 (主要6機種)

他の伸び（対前年度比56.7%増）とシェア（33.6%）が非常に大きくなっている。ここにも中国市場の急速な発展が反映されている。

反面、米国に対する輸出は2年連続の減少となり、2001年度は前年度に対し34.7%と大幅に減少した。

全体として、2001年度も国内で発生した中古車に対する全需要台数の半分以上（55.1%）を海外需要が占めることになったが、これは2年連続であり、前年度より輸出シェアは大きくなっている。今後も国内の建設投資が減少する見通しであるので、中古車の国内市場も縮小し、海外依存率はますます大きくなるものと思われる。

また中古車の販売形態として、大規模なパレードオークションやインターネットオークション、インターネットテンダー（入札）が定着してきた。特に大規模なパレードオークションは国内外のバイヤーが集まり、1回当たりの扱い台数が1,000~2,000台にもなり、中古流通では重要な手段となってきている。ただし最近の新型肺炎（SARS）騒ぎにより、開催取止めとなる事例が出つつある。

そのような状況下で中古輸出業者は、インターネットオークション及びインターネットテンダーに力を入れ始めた。IT化の進捗と共に自宅・事務所でオークションに手軽に参加出来ることから、今後販売量の増加が期待される。

5. 建設機械市場の今後の見通し

国内建設機械市場は、長期にわたる景気の後退、建設投資減少の波をまともに受け、需要低迷が続いているが、特に今日の大口需要家であるリース・レンタル業者に設備投資を控える傾向が見られることから、当面急速な回復は期待できない。

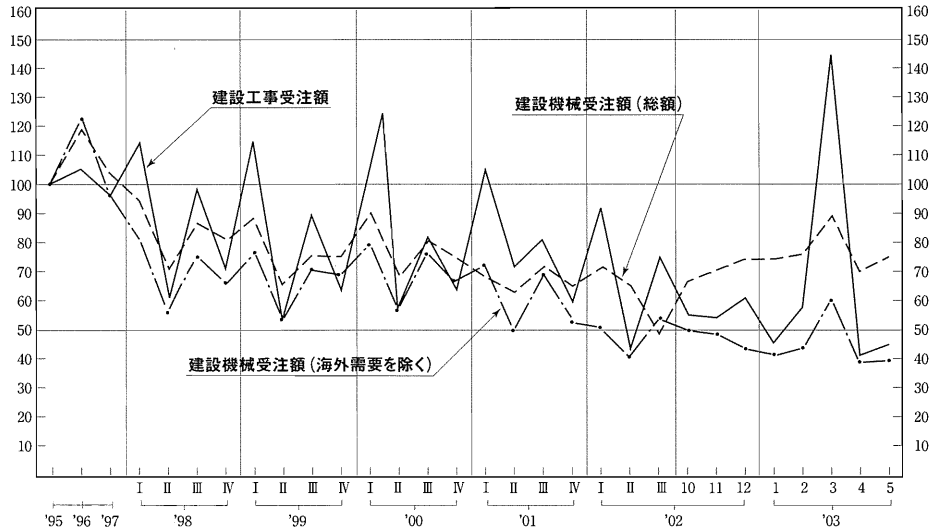
一方、海外市場においては、アジア地区の経済回復、とりわけオリンピック景気に沸く中国市場の拡大や、2003年に入り米国の在庫調整が終わってきたと見られることから、今後も内需不振を外需がカバーする状況が続くものと推測される。

なお、本報告に掲載した統計諸資料は社団法人日本建設機械工業会発表の統計資料によるものである。

統計

建設工事受注額・建設機械受注額の推移

建設工事受注額：建設工事受注動態統計調査（大手50社）（指数基準 1995年平均＝100）
 建設機械受注額：機械受注統計調査（建設機械企業数26前後）（指数基準 1995年平均＝100）



建設工事受注動態統計調査（大手50社）

（単位：億円）

年 月	総 計	受 注 者 別						工 事 種 類 別		未 消 化 工 事 高	施 工 高
		民 間			官 公 庁	そ の 他	海 外	建 築	土 木		
		計	製 造 業	非製造業							
1995年	194,524	110,954	17,326	93,627	66,793	5,679	11,098	117,867	76,657	219,214	200,862
1998年	167,747	103,361	16,700	86,662	51,132	4,719	8,535	106,206	61,541	193,823	183,759
1999年	155,242	96,192	12,637	83,555	50,169	4,631	4,250	97,073	58,169	186,191	164,564
2000年	159,439	101,397	17,588	83,808	45,494	6,188	6,360	104,913	54,526	180,331	160,536
2001年	143,383	90,656	15,363	75,293	39,133	6,441	7,153	93,605	49,778	162,832	160,904
2002年	129,862	80,979	11,010	69,970	36,773	5,468	6,641	86,797	43,064	146,863	145,881
2002年5月	7,648	4,549	652	3,897	2,111	409	578	5,119	2,529	157,565	9,566
6月	8,135	5,240	647	4,593	1,778	495	622	5,954	2,181	155,050	10,534
7月	10,297	6,279	992	5,287	2,949	402	672	6,873	3,424	154,240	10,572
8月	9,287	5,649	711	4,938	2,849	390	398	6,352	2,935	153,023	11,125
9月	16,369	10,898	1,656	9,242	4,139	459	872	11,404	4,964	154,141	15,013
10月	8,928	5,458	767	4,691	4,610	350	509	5,920	3,007	152,516	10,264
11月	8,759	5,544	825	4,719	2,460	415	339	6,066	2,693	149,752	11,470
12月	9,960	6,067	864	5,203	3,244	468	181	6,796	3,164	146,863	12,586
2003年1月	7,602	4,941	917	4,024	2,019	339	303	5,249	2,353	143,731	9,895
2月	9,385	6,033	946	5,087	2,661	449	241	6,208	3,177	141,894	11,428
3月	23,200	14,789	1,957	12,831	6,624	658	1,128	15,130	8,070	141,426	19,139
4月	6,720	4,604	730	3,874	1,206	382	527	4,405	2,315	140,202	8,583
5月	7,330	5,352	1,144	4,209	1,212	377	389	5,138	2,192	—	—

建設機械受注実績

（単位：億円）

年 月	'95年	'98年	'99年	'00年	'01年	'02年	'02年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	'03年 1月	2月	3月	4月	5月
総 額	12,464	10,327	9,471	9,748	8,983	8,667	713	674	581	702	820	696	741	770	765	789	922	729	780
海外需要	3,602	4,171	3,486	3,586	3,574	4,301	405	361	237	336	346	327	381	443	453	466	475	448	495
海外需要を除く	8,862	6,156	5,985	6,162	5,409	4,365	308	313	344	366	474	369	360	327	312	323	447	281	285

（注） 1995年～1997年は年平均で、1998年～2002年第3四半期は四半期ごとの平均値で図示した。

出典：国土交通省建設工事受注動態統計調査
 内閣府経済社会総合研究所機械受注統計調査